

# トロッコとめぐる90年の旅

— 黒部峡谷鉄道と黒部川の電源開発 — 平成28年 8月5日(金)より11月27日(日)まで

黒部川は富山県東部を流れる川である。北アルプスの鷲羽岳に源を発し、川の大部分は深い峡谷となり、急峻な地形と豊富な水量は大正時代に水力発電に適した川として注目された。本格的な電源開発は柳河原発電所に始まり、この資材運搬の為に敷設されたのが黒部専用鉄道である。

平成28年で宇奈月～猫又間が開通して90年になり、峡谷の自然と文化に親しみ、理解されるよう黒部峡谷鉄道の歴史を紹介する。



①

## 軌道と発電所について

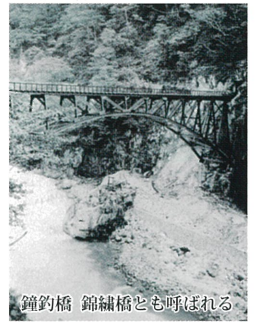
黒部川は内山村から先に道路はなく、明治30年代になってようやく川沿いに祖母谷まで木材を切り出すための林道が作られた(②)。それは温泉客や登山者に利用されたが、次第に手もいれられなくなり荒れていった。

大正時代になり日本にアルミニウムの製造を起こそうとして東洋アルミナム株式会社により水力発電の調査が行われ、樺平から上流も川沿いに道が開かれた。この道を利用して発電所の工事資材輸送に黒部専用鉄道は宇奈月から軌道敷設計画が進み、柳河原発電所の工事資材輸送に始まる。そして、大正15年に宇奈月から猫又まで開通した(③)。旧山彦橋(黒部橋)はこの時に建設され、峡谷の景観や洪水時に配慮し、橋脚を川中に建てない大径間の橋梁を採用した(①)。日本で最初の鉄道用スパンドレル・ブレースド・アーチであり、現存する同種の橋としては最古である。

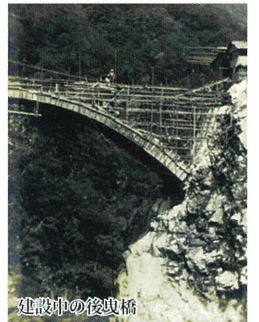
つづいて黒部川第二、第三発電所建設の工事資材輸送のために軌道は延長され、昭和12年に樺平まで開通する。



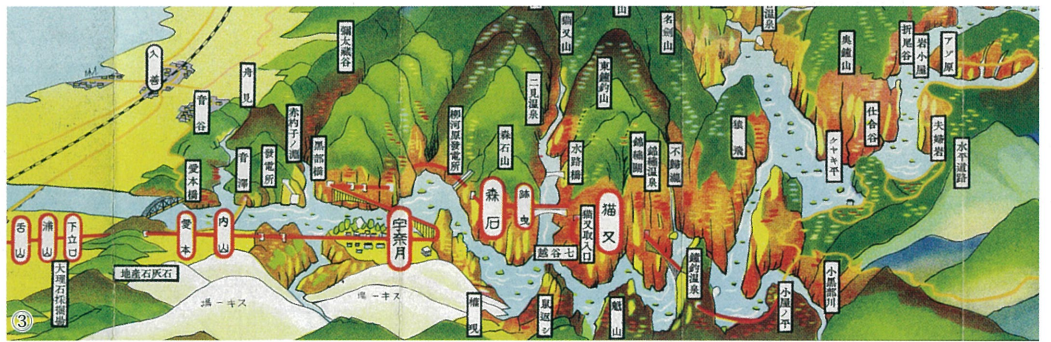
②



鐘釣橋 錦織橋とも呼ばれる



建設中の後叟橋



③

特別講演会 9月24日(土) 13:30~

黒部峡谷鉄道株式会社 代表取締役社長 小橋 一志 氏

現地研修会

8月28日(日) 9:15~14:40 (予定)  
「ジオパーク 宇奈月をたずねて」



黒部市歴史民俗資料館 (うなづき友学館)

富山県黒部市宇奈月町下立682 TEL 0765-65-1010

<http://www.city.kurobe.toyama.jp/contents/yuugakukan/>



- 黒部 IC から車で5分
- JR 北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」乗り換え 富山地方鉄道「下立駅」下車徒歩5分

